“VISION OF NERI&HU”
ELLE DECOR JAPAN; MAY 2021, P158 - P161

チームの力を最大限に高めるリノベーション

1 オフィス最上階のスタジオのライブラリー。左手のキャビネットはステラワークスより発表した「Cabinet of Curiosity Read」。 2 3、4階がネリ＆フーのオフィス。1階にはカフェ、2階にはコワーキングスペースが。3 既存の構造の一部は素材そのままの状態が選択された。

モダンな建築の価値が「大きさ」あるいは「新しさ」を基準に決定されがちなアジアにおいて、ネリ&フーによる作品は、異彩を放つ。規模を問わず、彼らの作品からは過去の記憶と同時代性を関連づける力が感じられるのだ。だから、リンドン・ネリとロザンナ・フーがオフィスの移転を模索していたときに、（オフィスを新築するのではなく）古い建物に手を加えて、それを磨き上げていくという考えに惹かれたことは自然な流れだった。

ネリ&フーの世界観に彩られた象徴的なプロジェクト

ネリ&フーの手に渡ることで解体を免れ、デザインハブとして再生を果たした4階建てオフィスが立つのは、上海の静安区。高級ホテルやショッピングモールが立ち並ぶ活気があるエリアだ。建物の3、4階部分をスタジオが占め、1、2階には彼らがアートディレクションを担当するブランド、ステラワークスのショールーム、ギャラリー、カフェが入る。「リノベーションのコンセプトは、『ノスタルジーの反映』。分かりやすく言うと、既存の建物とその歴史を尊重し、安易な提案をしないということです。私たちは、こうした建物の価値を信じています。街の空気と溶け合い、密接に絡み合っているのが感じられるから。些細なことに思える要素も、実は街を形成する連続性に寄与しているのです」とネリは語る。

“VISION OF NERI&HU”
ELLE DECOR JAPAN; MAY 2021, P158 - P161

Neri & Hu
ネリ&フー
リンドン・ネリとロザンナ・フーが2004年に上海で設立したデザインユニット。文化的背景を生かし、建築、家具、インテリアなど幅広く手がける。2015年からはステラワークスのクリエイティブディレクターを務める。2017年にはエル・デコインターナショナル・デザイン アワードのデザイナー・オブ・ザ・イヤーを受賞。

Visions of
NERI & HU

ネリ&フーの発想力を世界へ伝える新拠点

“イースト・ミーツ・ウエスト”という概念を軽々と塗り替えてきたネリ&フーのクリエイティブ。
彼らの描くさらなる未来像を探るべく、上海の新オフィスを訪ねた。

Photos JIAXI & ZHE, CHEN HAO, FANGFANG TIAN Original Text ALESSIO ROSATI
Text CHISATO YAMASHITA

“VISION OF NERI&HU”
ELLE DECOR JAPAN; MAY 2021, P158 - P161

世界が注視する、ネリ&フーの建築プロジェクト

Papi Restaurant
パピ レストラン

19世紀に建てられたパリ9区の建築物に入るレストラン。後の時代に加えられた仕上げを取り去り、オリジナルの建材である石灰岩、レンガ、鉄柱を剥き出しに。その素地にガラスやタイルといった要素を加味し、今日的なデザインへと再構築した。

©Simone Bossi

Aranya Art Center
アランヤ・アートセンター

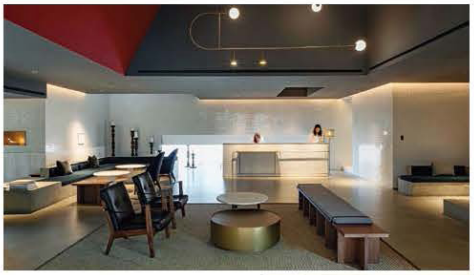
デベロッパーのアランヤによる中国河北省のリゾート内のアートセンター。円錐形に据えられたような中央部が特徴的。最下部の屋外劇場から、5つのギャラリーに立ち寄りながら螺旋状のスロープを登っていくと360度の風景を楽しめる屋上に辿り着く。

©Pedro Pegenaute

Suzhou Chapel
蘇州教会

所在地は中国、江蘇省。レンガを積んだ基盤の上に、さまざまなサイズの窓を開けた構造体と金属製のファサードで構成された教会。夜になると窓から漏れる光で幻想的な雰囲気に包まれる。木製ルーバーを多用した内部空間は天井高約12mを誇る。

©Pedro Pegenaute



Kimpton Da An Hotel
キンプトン ダ アン 台北

台湾台北市大安エリアのビルをホテルとして再生したプロジェクト。「内なる聖域」をコンセプトに、同地の裏通りで目にするタイルをモチーフにしたロビーや、台湾の屋台文化に着想したレストランなど、街の空気感を取り込み洗練された空間へと昇華した。

©Pedro Pegenaute

Tsingpu Yangzhou Retreat
チンプー 揚州 リトリート

中国、江蘇省にある瘦西湖を望む20部屋のホテル。既存の施設に新たな機能を与え、いくつかの建物を新規で設計するという課題を、それぞれの建物を格子状に囲い庭で繋ぐことで解決。この地域で伝統的とされる中庭付きの家が着想源となった。

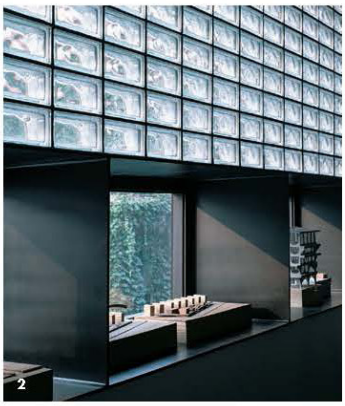
©Pedro Pegenaute

Junshan Cultural Center
岳陽文化センター

北京郊外の山々と密雲水庫近くの川に面した2階建ての商業施設を、クラブハウスを含む複合施設に改築。中国北部の伝統的な建築様式を現代的に解釈した。軽やかな木目調のアルミ製ファサードと、重厚感のあるレンガ造りの外壁との対比が美しい。

©Pedro Pegenaute

“VISION OF NERI&HU”
ELLE DECOR JAPAN; MAY 2021, P158 - P161



建物の機能を回復しつつ
デザインで新たな価値を付与

1 このフロアのためにデザインされたテーブルの上には、様々なプロジェクトの模型が。剥き出しのコンクリートが建物の歴史を物語る。2 既存の窓の一部には新たにガラスブロックが仕込まれた。 3 床を取り払うことで、2倍の天井高を確保するなど大胆な試みが随所に。

本プロジェクトでは、まず外観の意匠を変更するにあたり、彼らは構造自体には手を加えず、各フロアで横一直線に並ぶ窓のディテールを調整することに着手。窓の上部に半透明のガラスブロックを配することで、下部の透明なガラスとの静かなコントラストをまとった美しいファサードが誕生した。

建物の記憶を尊重した
大胆な再生プランを採用

2階から4階の外壁はダークグレー、地上階の壁面は光沢のあるグリーンのタイルを採用。この絶妙な質感と色の対比がファサードの個性を決定づけている。

「今回私たちが躯体に対して行った最大の介入のひとつは、3カ所の床を取り払ったことです。この作業で、それぞれ2倍の天井高を確保することができました。また同時にスペース同士の連続性も生まれました。あとは3階と4階の中央部に階段を設置したこと。2つのフロアが繋がり、スタジオ内のコミュニケーションにより活気が感じられるようになりましたね」とフーは振り返る。

既存の建物の価値を尊重しながら、デザインと空間、そして建築をひとつに融合することに成功した今回のリノベーションプロジェクト。むやみに建物を取り壊すことなく、新しい価値と存在意義を生み出す二人の建築的手法が、またひとつ我々の記憶に刻まれた。